

関西帰国生親の会かけはし会報

Vol.47 関西帰国生親の会かけはし kakehashi@kansai.email.ne.jp

明るい日差しの下で、フレッシュな社会人が新生活をスタートする季節が巡ってきました。今春もかけはし会報をお届けできますのも、私どもを支えてくださる皆様のおかげと、心より感謝申し上げます。

今回の会報では、長年帰国生教育にご尽力くださった海外子女教育振興財団の前教育相談室長にお話を伺いました。帰国生の特性や強み、また帰国生であることから生まれる悩み、親のサポートの方法等について、ずっと子どもたちに寄り添ってこられた先生ならではの温かなコメントを頂きました。また、「海外での経験は将来に亘って大きな力となっていることは社会人になってから自覚することがあるかもしれません」とのお話もありました。それは、「社会人になった帰国生、今どう思ってる？」にも帰国生の思いが溢れていて、親としては子どもが海外生活を肯定的に捉えていることをたいへんうれしく思います。海外に出ると、親も子ども最初は戸惑うことが多いでしょうが、親は目先のことだけではなく、10年、20年先に頼もしく成長した子どもを見ることを楽しみに、長い目で見守る存在であることも必要かもしれませんね。かけはしレポートでは、前号からの続きとして、「帰国時に持ち帰って失敗したもの」を取り上げました。数々の持ち帰った失敗品が並んでいますので、くすっと笑いながら、帰国時の参考にしてください。また、毎回反響をいただいている異文化でドッキリ！では「地理気候編」をお送りします。

かけはしでは、『帰国生への学校案内《関西》2023』の編集作業が始動いたしました。帰国生の学校選択のお役に立てますよう微力ながらも会員一同で取り組んでまいりますので、10月の発刊を楽しみにお待ちしております。よろしくお願いいたします。

関西帰国生親の会かけはし



目次

* ご挨拶	1
* 特集 - いつか社会人になる帰国生へ -	
「帰国生と歩んだ日々」 公益財団法人 海外子女教育振興財団 前教育相談室長 植野 美穂	2
「社会人になった帰国生、今どう思ってる？」	帰国生 3名 5
* かけはしレポート (第25回) 「帰国時に持ち帰って失敗したもの」	7
* 異文化でドッキリ! <地理気候編>	10
* 海外の学校を紹介します 「International School of Tallinn」	S. T. 12
* かけはし会員便り	13
* 「関西帰国生親の会かけはし」と他の団体とのつながり・春のオンラインレッツトーク	14
* 会員のつぶやき・編集後記	15
* 『帰国生への学校案内《関西》2023』・賛助くださっているみなさま	16

(敬称略)

「帰国生と歩んだ日々」



公益財団法人 海外子女教育振興財団
事業部 教育相談チーム
前教育相談室長 植野 美穂 先生

東京学芸大学附属高等学校大泉校舎が開校した 1974 年以來、数学教諭として勤務。同大学附属国際中等教育学校の開設準備室長を経て 2007 年から同校教諭、翌年主幹教諭。2009 年から勤務した海外子女教育振興財団を 2022 年 3 月に退職。

一 学校の開校から閉校まで勤務された大泉校舎の生徒たちに持たれた印象をお聞かせください。

◆ 東京学芸大学附属高等学校大泉校舎は帰国生だけの学校で、1 クラスの定員が 15 名、1 学年 4 クラスの少人数の高校でした。帰国卒受験がある大学もごくわずかで、一般入試で受験したお子さんが多かった時代から、次第に受け入れ校が増え、受験情報も豊富になって、帰国生大学入試がどんどん増えていった 30 年余り。その間に生徒たちは、それぞれが自分の考えをきちんと述べ、こちらが予想もつかないような発想をする面白い子が多かった印象から、割合おとなしく、周りの子に対しても気を遣うとか、集団行動のとり方がうまくなってきたとか、そんな変化も出てきた気がしますね。海外にいて、日本に帰ってからのことを意識するよりも、何とか現地で自分を生かしながら暮らさざるを得なかったころと、海外でもいろいろ情報が飛び交うようになり、ある程度帰国後の学校のことを知識として知っていて、帰ってきてからのことを常に考えながら過ごさなければならないのでは、やはり少し違うのかもしれませんが、それは帰国生がというより、保護者の方々の意識が変わってきたのだと思うんです。

一 たくさんの帰国生に数学を教えたご経験の中で、印象に残っているエピソードはありますか。

◆ 海外の学校で得意だった科目の一つに「数学」と答える帰国生は多いです。しかし、帰国後日本の学校に入るとその自信が消え、苦手な科目になってしまう生徒は少なくありません。生徒が主体的に学習に取り組み、数学を学習することのよさや楽しさがわかるような授業の改善をはかるために、新入生と編入生に対して「私にとっての数学」というレポートを夏休みの宿題に出し、帰国生が海外でどのような授業を受けてきたか、またこれまで受けてきた授業から数学に対してどのようなイメージを抱いているかということについて調べました。アメリカの現地校に通っていた M さんは、海外の学校で受けた授業によって数学に対するイメージがすっかり変わったと教えてくれました。「日本の数学を受けていたとき、私にとって数学とは質量のない存在か、つかんでも指の間から抜けていってしまう、サラサラの砂のようなものだった。問題集かテストでしかお目にかからない、教科書上の世界のように思っていた。しかし、アメリカに渡り、今までと全く違う数学を受けたことで少しずつ変わってきた。数学とは、ただ成績を落とすためにあるのではなく、日常生活の中で実際に関係があり便利なものだと、当たり前と言ってしまうあたり前のことかもしれないが、私の今までの数学のイメージが 180 度変わった。」生徒は、数学に対する恨みつらみ、憧れ、大切だと思う気持ち等、いろいろな思いを書いてくれました。これらのレポートは、数学の授業の指導内容や指導方法を見直す貴重な資料でしたが、生徒にとっても、海外での体験を振り返り、自己を見直すきっかけになったようです。

一 子どもたちに海外で是非経験してほしいと思われるのはどのようなことですか。

◆ 保護者の方は語学力を身につけてほしいと思われるかも知れませんが、文化や価値観が違う人々の中で一緒に生活し、その違いを知るといことが、子どもたちにとっては一番大事なことだと思います。通学する学校での勉強にしっかり取り組み、現地の友達、先生との信頼関係を築いていくことが基本ですが、その土地ならではの良さや課題、日本との違いについて考えるきっかけをつくるためにも、滞在地の歴史、文化、自然に触れる機会を持ってほしいです。

一 帰国生の相談で多いのはどのようなことですか。どのようなアドバイスをなさっていますか。

◆ 帰国後の学校選択です。小学生の場合は、「帰国生の多い公立小学校はどこですか」という相談が多く寄せられますが、帰国・外国人児童に日本語指導や未学習教科の補習を行う教室を設置している学校・地域はごく一部です。帰国児童がほとんどいない学校でも、担任の先生をはじめ学年主任、校長先生等に、海外での学校生活、教育事情について説明し、異なる教育環境で育ったことを理解してもらうことが日本の学校への適応につながります。日本語に不安がある場合は、日本語指導を受けられる場合もありますので、学校や教育委員会に相談されることをおすすめします。

小学校高学年の子どもや、中学生、高校生の場合は、帰国生の受け入れ校、進路選択、帰国のタイミング、高校での編入受け入れ、大学受験、出願資格等に関する相談が多いです。どの学校を選択するかは、お子さんによって事情が異なりますが、共通することは、偏差値や進学状況に振り回されると不安だけが増し、お子さんにとって最も適した学校を選ぼうとする姿勢が持ちにくくなります。お子さんの特性(性格、興味、学習に対する姿勢、将来への希望、海外での学習経験・生活体験等)から、学校選択をするのに重視すべき点をご家庭でよく話し合わせ、子どもと学校の相性をしっかり見極めることが大切です。海外にいてもインターネットで、帰国生の受け入れ校に関する受験情報を集めることはできますが、学校説明会に参加したり、実際に学校を訪問して担当の先生の説明を聞いたり、在校生の様子を見学することで学校の雰囲気を感じとることができます。また、その学校に入りたいというお子さんご自身のモチベーションを高める上でも効果的です。

学校が合わないというご相談を受けることもありますが、帰国生は、自分のことを受け入れてほしいので周りに対して平静な顔をしながら明るく振舞ったりしていても、心の中では何か違うなという違和感をずっと持ち続けている場合もあると思います。海外ではもっと自分の考えを表に出し、自分が面白いと思ったことや勉強も一生懸命やっていたのに、ついていだけの勉強とか入試や進学のための勉強に対して違和感を持っているお子さんがけっこういらっしゃる気がします。そこを乗り越えて、部活動の中でまた新たな活躍の場を見つけられたり、自分の一つのいい経験だと割り切って自分の目標に向かって先に進めるお子さんもいれば、そうじゃないお子さんもいらっしゃいます。学校の中にその子の表に出せない心の中のいろいろな悩みをわかってくれる先生が一人でもいれば違うと思いますが、先生とコミュニケーションをとりながら、どうしてもダメなときには転校するというのも一つの方向だとは思いますが。

一 帰国後、日本の学校になかなか馴染めずにいるお子さんに、親はどのように寄り添い、声掛けをしたらよいとお考えでしょうか。

◆ まず、子どもが何を不安に思っているのかに耳を傾け、気持ちを受けとめてあげることが大切だと思います。お子さんによっては、学校行事等で活躍する機会が持てたことで前向きになれたり、気の合う友達が見つかることで学校が楽しくなる場合もあります。しかし、親御さんが担任の先生、スクールカウンセラー、専門医に相談しながら解決の方法を探ってみても、学校に行こうとすると体調が悪くなり、不登校の状態が長引く場合もあります。このような場合、お子さんに対しても、親御さんご自身に対しても「○○しなければならぬ」という気持ちを減らしてゆったり生活することを心がけ、お子さん自身が「自分は○○したい」と心の中からエネルギーが湧き上がってくるのを待つことが大切なのではないでしょうか。

小学生のときは、友達と一緒に遊びながらということが多いですが、必ずしも教室や勉強の中だけではなく、違いを見つけて「面白いね」と思えたり、お友達と触れ合う機会を親御さんが見つけてあげられるといいですね。また、高学年になると女の子などは特に友達でグループができていたりするし難しさはあります。でも、その中でも誰かお友達が見つかる可能性はあるし、クラスが変わると次の学年ではうまくいく可能性もあります。日々の自分の生活の中で何か楽しみを見つけるとか、それが本であろうと映画であろうと、自分が楽しいと思う時間を持つようにするというのが大事じゃないかなと思います。高校生に関しては、高校生活は大切な勉強の場ではありますが、必ず学校に通わなければいけないということでもなく、通信制などいろいろな道があると思いますので、進路の選択肢の幅が狭まらないようにという点で、高校を卒業してもらいたいなと思っています。

適応力は人によって本当に違います。親とは違う大人が近くにいる、いろいろなアドバイスを続けてくれたら心強いだらうなと思います。そんな大人が学校の先生の中に一人でもいらっしゃるいいですね。

一 **海外での経験が貴重だと子ども自身が思えるようになるために、親が心掛けることはありますか。**

◆ お子さんの海外生活体験が豊かになるように、それぞれのご家庭で工夫し、困ったことやつらいことがあっても家族で支えあい、異文化生活を楽しんでいこうとする姿勢が必要なのではないかと思います。ただし、帰国生の皆さんが海外での経験が大切で貴重なものだと思えるようになるのは、社会人になって海外での経験が自分の大きな力になっていることを自覚するときで、時間がかかるかもしれません。

一 **帰国生の強みはどのようなところにあると思われませんか。**

◆ 帰国生といっても、海外での滞在年数、滞在時期、滞在地、通学した学校が違うので、それをひとくりにすることはできませんし、してはいけないと思います。言葉が違う国で毎日生活することになり、黙っていても認めてもらえないので自分の考え方をきちんと出して、人とコミュニケーションをとってきた、自分自身で何とかしなければならぬという環境で生きてきたその経験が、帰国生を強くしているのだと思います。異文化の中で生活した経験そのものが強みになっているのではないのでしょうか。多様な背景を持つ他者と共生し、よりよい社会を形成していくための社会的能力がこれからのグローバル化社会を生き抜いていく上で求められますが、それには、文化の違いを認識し、理解することが大切です。帰国生は異文化の中でこのような社会的能力を育んできたと思います。

一 **海外で学んでいる子どもたちや帰国生、保護者の方へのエールをお願いいたします。**

◆ 財団の教育相談員をしていると、かつての教え子からの教育相談を受けることがあります。昔は親の赴任に伴って海外で学んだ子どもが、今度は海外で活躍する社会人として、また子どもを海外に帯同する親として、滞在地での子どもの教育、帰国後の教育で子どもに寄り添い、家族の絆を深めている様子がうかがえ、嬉しくなります。異文化体験を通して子どもたちは、社会の変化に対応できる柔軟性と適応力を備えていきますが、それを人生のステップアップに活かしていくことを願っています。

一 **お忙しいところ、貴重なお話をありがとうございました。**

インタビューを終えて

これまで長年にわたり、本当にたくさんの帰国生と接してこられた先生から聞かせていただくお話はとても奥が深く、悩んでいたお子さんたち一人ひとりの将来をとともに考え、寄り添いながらアドバイスなさってきたことが伝わってきました。在外教育施設の教育研究支援に関わるお仕事はこれからも続けられるとのこと。「私は優しいけど厳しいですよ」と笑顔でおっしゃり、数学教育への思いについても語られた植野先生の今後のご活躍をお祈りしています。

社会人になった帰国生、今どう思ってる？

すでに社会人である帰国生の方々に、親の転勤で海外へ行き、現地で生活した経験をその後のご自身の人生にどのようにつなげているかを振り返っていただきました。(表記は原文のまま)

●N.O.さん アメリカ 1~2歳 イギリス 5~11歳 アメリカ 16~18歳 イギリス 18歳~現在
社会人3年目 税理士

現地でやっておいてよかったこと

日本、現地両方での就職活動。両方から学ぶことができ、それぞれを活かすことができた。特に日本の就活は面接が多く、現地では対面式の面接が少なかった(録音して送るのがほとんど)ので、日本の就活をしていなければ現地での面接に自信を持って挑むことができなかつただろう。

現地でやっておけばよかったこと

大学1年生の時にインターンをする事で有利になる。必須ではないが学年が上がるにつれて勉強も忙しくなるので、先にやっておいた方が後で楽。

現在、イギリスでは大学卒業後に現地に残れる期間が長くなったので、私が大学にいた頃ほど焦って就活しなくても大丈夫。就活はかなりのストレスになるので、与えられた時間を使って大学卒業後に就活に専念するのもよし。



学生時代の友人とブダペストで再会

海外での経験

私は就職してすぐにコロナ禍になってしまったので、配属になった現地で友達を作るのが非常に難しかった。社会人になると自分の時間が少なくなるので、学生時代の友達が本当に大切。

●K.K.さん アメリカ 4~11歳 社会人4年目 総合商社でリテイル分野事業の経営管理

現地でやっておいてよかったこと

地域のスポーツチーム。今の自分に大きく影響していると感じている。私の住んでいた地域では春は野球、冬はバスケットと季節ごとに競技の開催シーズンが区切られており、他校も交えてチームが組成され、週末に練習や試合を行っていた。万国共通の言語でもあるスポーツを通して、他校の生徒も含めチームメイトとのコミュニケーションが自然と生まれ、交流の輪を広げることができたと共に、存在を認めてもらえているというある種の心理的安心感を得ることもできていたと思う。こういったスポーツチームのようなコミュニティに身を置くことは、地域に馴染むという観点からも現地での経験として最もよかったことの一つである。

帰国後にやっておいてよかったこと

SNSを通して現地の友人達と継続的に、かつ意識的に接点を持ったこと。私が帰国した時期は丁度Facebookが出始めた頃で、全員が利用しているツールではなかったが、今となっては当時から始めておいて本当によかった。帰国後も、海外にいる友人の投稿へコメントするなりショートメッセージで会話するなり、何かしらの形で関係性を継続させることは非常に大事だ。現地の友人達は、私が思っているより私のことを大事に思ってくれており、彼らの幼少期の一部として認識してくれている。成長しお互いがそれぞれの人生を歩む中、彼らとの色褪せない関係性やニューヨークは自分の中の確固たるルーツであるという思いを維持するためにも、私は彼らとの繋がりを大切にしたい。数年前、帰国後13年ぶりにニューヨークを再び訪れた。何より嬉しかったのは、当時の友人達と再会できたことだ。久しぶりに会った彼らは、昔の面影を存分に残しつつも新しい一面も色々と見せてくれた。もし10年以上音信不通となっていたら、このような再会



友人は卒業アルバムを持参

もきっと生まれなかつただろう。帰国後は新しい環境で新しい人生が始まるわけだが、一度住んだ海外の地を「帰れる場所」として残してくれるのが、そこにいる人達との継続的な繋がりだと改めて感じた。

海外での経験が今の自分にどう繋がっているか

有難いことに国際色豊かな地域に身を置くことができた。ドイツ系や中華系のアメリカ人もいれば、アイルランドやインドにルーツを持つ家庭もあり、個性を尊重するという価値観が共有されていた環境でもあった。言うならば「みんな違ってみんないい」ということだ。一方、海外と比べ日本は「出る杭は打たれる」という文化がやや残ってしまっているという一面は否めない。ただ、そのような空気感にも臆せず自分らしく居続けること、自分らしく表現する自由を持つこと、そして多様な価値観の存在を認識し受容することが、人との繋がり、ひいては自分自身の人生に対する充実感・納得感にとって大事な要素であると信じ、今もそのように在りたいと信じている。そのような生き方の軸を、海外での経験を通して形成できたと感じている。

●D.T.さん アメリカ 13~15歳 社会人8年目 製造業の企画職

現地でやっておいてよかったこと

現地校でのシーズンスポーツ(部活)、課外活動(剣道)、英語チューター(学習塾)

現地でやっておけばよかったこと

プロム等の学校イベント、海外ならではの授業の受講(ギター等)

帰国してからやっておいてよかったこと

英語力の維持・向上(帰国生向け学習塾、大学の専用カリキュラム)、留学生との積極的な交流、翻訳のアルバイト



12月。男子水泳部のシーズン開始！
冬だから、もちろん室内プール

海外での経験が今の自分にどうつながっているか

英語力の習得は言うまでもないが、多様な価値観を認識できたことは大きな財産である。中学2年生という多感な時期に、言語から思想、生活環境まで何もかも違う国へ移住することで、人間の多様性を肌で感じるとともに、自分自身のアイデンティティと向き合うことができたと思う。物事を多面的に捉える癖がつくきっかけになり、会社での業務のみならず、その後の生き方にも大きな影響を与えてくれたと思う。

両親は教育熱心で、小学生の頃から塾に通わせてくれていたが、私自身のモチベーションが伴っておらず、中学受験も失敗。悔しさをバネに頑張るわけでもなく、勉学がおろそかなまま生活を送っていた。そんな中での海外移住は私にとって大きな転機だった。惰性を振り切り、自らの意思で勉学と向き合うきっかけをもらったことで、高校、大学と希望した道へ進むことができ、充実した学生生活を謳歌しながら、社会人として重要な人間形成ができたと感じている。

海外では両親の後押しもあり、現地校での部活動をはじめ、大変多くの経験をさせてもらった。振り返ると、海外での生活は私にとって、いわば“成長への種まき”の時間だったのだと感じている。そして真に重要なのは、その種をどう育てるかということだと、帰国から15年経った今、そう思っている。

私自身の例で言うと、より良い環境に身を置くべく勉学に励み、高校入学、大学進学後も、未熟だった英語をさらに伸ばすため地道な修練を重ねた。異なる組織、団体に所属し、価値観をアップデートすることを常に心掛け、社会人となった今も、様々な領域でのチャレンジを続けている。

海外での生活というのは、多くの場合、人生のほんの一ページにすぎない。5年後、10年後を意識した時に、限られた時間の中で、与えられた環境をどう活かすのか。帰国生である皆様にお伝えしたいのは、海外にいるから、あるいは帰国したからこそできることに、がむしゃらにチャレンジしてみたい、ということだ。思い悩み、辛い日々を送ることもあるかもしれない。しかし、その葛藤こそが、成長の証なのだ。そうしてまいた種はいつか、きっと、あなた達が一步踏み出す力と勇気をくれると思う。

かけはしレポート (第 25 回)

帰国時に持ち帰って失敗したもの

・はじめに

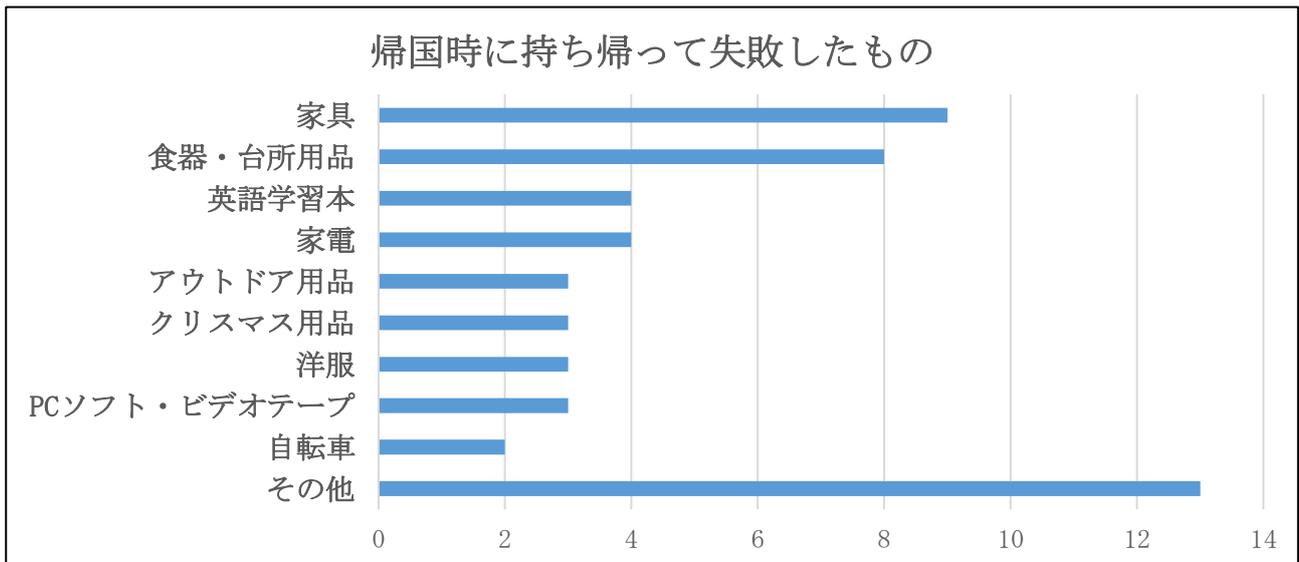
海外生活を経験された人によくある話で、現地でどんなに愛用していたものでも、帰国したら全く使わなくなったものがあることを聞きます。かと言って外国生活での思い出の品はなかなか手放せません。今回は前号からの続きとして「帰国時に持ち帰って失敗したもの」について会員の意見を聞いてみました。

・アンケート調査について

- ① 目的：帰国時に持ち帰ってよかったもの、失敗したものについての意見調査
- ② 実施期間：2021 年 10 月
- ③ 対象：かけはし会員と海外生活経験のある知人 合計 35 人
- ④ 質問：帰国時に持ち帰ってよかったもの、失敗したもの、それらの理由(自由記述・複数回答あり)

・結果と考察

1 帰国時に持ち帰って失敗したもの



回答をカテゴリー分けしました。結果は上のグラフのとおりです。「家具」「食器・台所用品」の失敗が多かった模様です。その他は「楽器」「小銭」「余分買った安い土産」「エコバッグ」「文房具」「靴」「ゴミ箱」「ベッドカバー」「ベビーカー」「鳩時計」「おもちゃ」「特になし」でした。以下はその理由についてです。

2 持ち帰って失敗した理由(表記は原文のまま)

カテゴリー	理由
家具	6人がけのダイニングセットとテレビボードを買ってきたが、アメリカの家では土足の生活で、日本の標準より板や椅子が10cm高く、座ると足がつかない アンティークの椅子を持ってきたが虫食いが残っていて気がついたら座面の中身がぼこぼこに。修理に2万円かかった。日本の家には大きすぎます アメリカで買ったダイニングセットは天板が2枚抜けて小さくなるから大丈夫と思ったが、日本の家では邪魔になるほど大きかった ソファを気に入っていたので持って帰ったが、日本では大きすぎて搬入するのに苦労した

<p>食器 台所用品</p>	<p>マドレーヌ型やマフィン型は大きすぎて、日本のオーブンには入らなかった。置く場所がない。お菓子作りのケーキ型は使っていない。たまに使うかな 鉄製のロッジのフライパンは大きすぎて重すぎて一度しか使っていない 日本では収納するところがない。かさばって使わない食器がある 帰国後、食洗機ではなく手洗いなので、アメリカの重い食器は使う頻度が激減 Crate & Barrel のサラダボールやマグカップはとてもお気に入りでも重宝していたが、日本の食器棚には大きすぎだった。イギリスでヴィンテージやアンティークのカップを調子に乗って集めてしまったら 200 客以上となり、置く場所にも困るのでいずれはネットで売るアンティークの動物の角のついたカトラリーを買ったが、よく見たら気味が悪い</p>
<p>英語学習本</p>	<p>英語保持にと考えていろいろ買い込んできたけれど結局何ひとつしなくてリサイクルゴミになった。結局読んでいない。子ども用に大量の英語の本を買い込んだが、読むことがなく、ネットオークションに出品したら結構高く売れた</p>
<p>家電</p>	<p>DVD デッキは日本では音は聞こえるものの全く画面が映らず アメリカで買ったプレッシャーウォッシャー(高圧洗浄機)で家の外壁を洗浄していたら、あまりの音の大きさに、ご近所の皆さんが何の工事が始まったかとびっくりされ、結局ホースとブラシで手洗いしていた。バイタミックスのミキサーや大きな掃除機、スロークッカーはアメリカで安く購入できて便利であったが、性能がもっと良い商品がすでにあり、出して使うのが億劫でほとんど使っていない</p>
<p>アウトドア用品</p>	<p>帰国後は子どもが週末もスポーツの習い事で休みがなく、一度もキャンプに行かなかった 子どもが部活で忙しく、キャンプや釣りに行く機会がない 屋外用のテーブルとイス、パラソルは日本の家では置くスペースがなかった。気にいっていたものなので、捨てられない。キャンプ用セットは安いのですが、敢えて持って帰らなくても、日本でキャンプをするなら日本製のほうがおしゃれで機能的だと思います。コールマンのガスコンロは日本では取り換え用のガス缶が売ってないので本当に大失敗でした(日本のイワタニは素晴らしい)</p>
<p>クリスマス用品</p>	<p>クリスマスツリーは大きすぎてじゃまになった。船便で送られてきたら土台が無くなっていて仕方がないから一升瓶に挿したが次の年に捨てた スリムタイプのツリーを買い持って帰ってきたが、やはり日本の家には大きい。しかもクリスマスが過ぎればすぐに片付けなくてはいけないので、年末の忙しい時にさらに仕事が増えてしまう。数年は飾ったが、もう出すのも諦めた</p>
<p>洋服</p>	<p>チャイナドレスを音楽会の舞台用に何着かオーダーしたものだが、帰国後は着ることも人に見せることもなく箆筒にしまったまま。もうファスナーも閉まらない 現地でオーダーした服は雰囲気の違いすぎて日本では全然着れず、数年後、娘のお弁当袋に生まれ変わりました。リサイクルできたってことは失敗ではないかも 使えると思った衣類を持ってきたが、現地の臭いがして汚かったので速攻捨てた</p>
<p>PC ソフト ビデオテープ</p>	<p>英語で遊びながら学べるような PC ソフトは PC のアップグレードにより使えなくなった 大量のビデオを買ってきたが、それらはほとんど見ることなく、ビデオの時代は終わりとなり引っ越しの時に捨てた</p>
<p>自転車</p>	<p>子どもの自転車は日本製の部品は合わず、結局買い替えることになった 自転車(ビーチクルーザー)は日本の公道では大きすぎて乗れなかった</p>

<p>その他</p>	<p>民族楽器を買ってきたが演奏法を知らないまま活用できない 小銭は日本のお賽銭には気の毒 余分買った安いお土産物はだれに渡すわけでもなく、結局捨ててしまった 帰国時、自分へのお土産にと El Corte Ingres(エルコルテイングレス)のマークが全面に プリントされたエコバッグを買って帰ったが、日本での毎日の買い物にはあまりにも派手 すぎて使えなかった。文房具は日本のほうがクオリティが高い 革の靴が好きでアウトレットなどでたくさん買って持って帰ってきたが、歳とともに足の 形も変わるし、「歩く」日本では、ヒールが高いものや靴幅が細いものは履く気にもならな くなって、お蔵入り。大きなセンサー付きゴミ箱は買って間もなかったけど船便が日本に 到着した時には、胴体部分が大きくへこみ、センサーも壊れて、大きすぎて処分した ベッドカバーやファブリックは色や柄は素敵であったが規格にあわなかった マクラーレンのベビーカーは重たいし、大きいので、公共交通機関では使いづらかった、 また折りたたむと横に寝かせる必要があり、お店や保育園でベビーカーを預かってもら うときに難儀した。日本製の折りたたんでも自立するベビーカーがうらやましかった 鳩時計が有名で精巧にできているので思わず買ってしまったが、音がうるさくなって片づ けてしまった。木の輪を棒で転がすレトロな遊具に憧れてアメリカの民族村のようなと ころで買ったものだが、日本では転がす広い場所もなく、倉庫で眠るだけであった 特にな</p>
------------	---

まさに「所変われば品変わる」というわけでしょうか。海外では日常生活にフィットしていたはずのものが、日本では大きさや TPO にそぐわなくなってしまうものもあります。それぞれの理由には、笑いが漏れてしまうようなものから、なるほどと思うものなど、現地の生活をすべてそのまま日本に持ち込むことの難しさが表れているようです。

・まとめ

前号では「帰国時に持ち帰ってよかったもの」今号では「帰国時に持ち帰って失敗したもの」について、みなさんの意見を聞いてみました。生活に便利なものは、上手に活用されていますが、日本の規格に合わないものや、大型のレジャー用品などは持て余しているようでした。

「家具」「食器・台所用品」は双方において上位を占めていました。家具にしろ、食器・台所用品にしろ多種多様なので、持ち帰ってよいのか失敗なのかは単純に比較はできませんが、日本でのそれぞれ個人の生活スタイルに、うまく合致したか、しなかったかの感覚の差なのでしょう。他の品目についても同様です。例えば「日本のものより大きい」「カラフルで目立つ」「日本ではなかなか見かけない」などといったことは、是にも非にもなってしまうようです。また、つつい他人の目や感想、流行も気になってしまうものです。

ある会員は「クローゼットの奥から懐かしい海外で使っていたものがでてくると、なんだかうれしくなつて、使おうと出すが、結局使わずにまたしまうことになる。でも思い出深くてもったいないから捨てることもできない。何年もこの繰り返しだ」と笑っていました。誰でも大事に思って手放せない「もの」があるでしょう。子どもたちが成長しても、ファミリーヒストリーを彩る「もの」は、思い出を紡ぎます。海外から持ち帰った「もの」には特にこの思いが強いのも確かです。たとえ不要になったり壊れたりしても、大切であることには変わりなくいつまでも手元に置いておきたいです。たかが「もの」されど「もの」なのです。それが積もり積もって、増えてしまうのもまた別の悩みとなるのですが。

46 号、47 号と、会員たちの個人的な経験を聞いてみました。これから帰国される方の引越し荷物の選別に、これらの意見がお役に立てれば幸いです。誰でも思い出の品はひとつでも多く残したいものですよ。

異文化でドッキリ! <地理気候編>

毎回驚きいっぱいの異文化でどっきり。今回は各国の地理気候にまつわるエピソードです。

主人の単身赴任先ドバイに真夏の8月に訪れた時のことです。観光地巡りで冷房の効いた車から降りた瞬間、メガネが真っ白に。

暑さとともにものすごい湿気で一瞬息がつかまりました。中東は暑くて乾燥していると思っていたので、びっくり。あまりの暑さで海水が蒸発しているそうです。(ドバイ)



子供の頃、雑誌に「暑い砂漠では車のボンネットが目玉焼きができる」と書いてありました。砂漠の国に住んで実験のチャンス! とはいえ車のボンネットに卵を割るのはいかがか。ということでフライパンに卵を割って日なたへ。しばらくして見ると、熱くなる前に乾燥して白身が乾いてきている…。さすがは出しっぱなしの海苔もバリバリの乾燥度。そこで、ラップをかけて放置しました。結局温泉卵くらいで実験終了して、おいしくいただきました。(サウジアラビア)

0度以下になっても凍らない雨が樹木や地面に凍り付くフリージングレイン(雨氷)は、冬になると度々起こる現象です。凍った樹木が折れると電線が切れて停電になったり、道路の表面がアイススケートリンクのようになるため転倒や自動車の運転に気をつけなければなりません。

冬は大雪とこのフリージングレインで休校が多かった



ので、子どもたちは周りの雪かきや氷の撤去作業をよく手伝ってくれました。(アメリカ)



ヨーロッパに寒波が押し寄せた冬に3歳の娘をつれてオランダ旅行をした。寒さの厳しさは耳がちぎれそうで頭痛がするほどだった。それでも二泊三日という限られた時間をフル稼働すべく、娘には下着やセーター、更にスキューエアのようなつなぎを着せ、常時抱きかかえて観光スタート。しかし、寒さからくる体力消耗と娘の重さで直ぐにへとへとに。彼女を少しでも歩かせようと地面に降ろすと、そのたびにフリーズしてヒューヒュー泣く。結局途中で断念せざるを得ずホテルに退散した。大陸の寒さは底冷えがして体の芯から冷えると聞いていたが、その寒波は想像以上だった。「跳ね橋が上がるころも見たかったな〜」。(オランダ)

一年中暑いマレーシアですが、紅茶の産地として知られるキャメロン・ハイランドは、高原ならではの涼しさ。パーカーやセーターが必要です。訪れたのは2月でしたが、辺りはコスモスが咲き乱れ、日本の秋かと思うほど。その傍らでは苺を栽培しており、いざ苺摘み。実はこの苺はかなり酸っぱくて、現地人はチョコレートをかけて食べていました。冷え込む夜は屋台でホカホカの甘〜い焼き芋を頬張り…あれ? 今の季節は何だっけ?(マレーシア)

中国と言えば空が霞んできて視界が悪くなる黄砂を思い浮かべる人も多いのでは? 特に駐在員の多い北京の春は黄砂の被害が酷いようです。現在のようにみんなマスクをする生活でないときも、黄砂のときは女性はスカーフを頭にスポリ被りサングラスをしてとにかく皮膚が出ないようにして出かけ、帰ってきたら家にはいる前に体を振って砂をほろっていたそうです。出かけないのが一番の対策ですが、家の中でも日本から持っていた空気清浄機をフル活用して凌いだとか。(中国)

初めてのストーム。気象警報「オレンジアラート」が発令されていましたが、最も厳しい「レッドアラート」ではないので、たいしたことはないだろうと思っていました。ところが交通機関が止まり、だん



だん風が強まってきたと思っていたらバラバラという鈍い音とともに上から黒いものが。我が

家は築 80 年を超える古いアパート、壊れたらどうしようとしてちょっとドキドキしていたら、次はスマホからけたたましいアラート音。「緊急出動の要請が多すぎる、危険だから建物内にとどまって」というアナウンスでした。いろんな意味でビックリなできごとでした。(オランダ)

漫画などで「砂嵐がやってくる」というとあらかじめ茶色いかたまりが向かってきますよね。嘘みたいと思っていましたが、本当でした。数年に一度の大きな砂嵐がきた時、茶色っぽい濃霧のようなものが迫ってきて、入った途端に、気温がすつと下がります。



吸い込むと体に悪いと言われて大急ぎで口を覆い、車に乗りましたが前の車の尾灯がやっと見えるくらい。家の窓から外を見ると赤っぽくて薄暗い時間が続きました。(サウジアラビア)



毎年初春から花粉症に悩まされる夫！でも中国に駐在していた 4 年間はその悩みから解放され快適に過ごしていました。上海ではスギやヒノキがないため、眼がかゆくなったり、クシャミをしたりすることもなく、マスクをして防御する必要もなくとても喜んでいました。日本では春は憂鬱な季節だった夫ですが中国では「春よ来い♪」でした。(中国)

イギリス人は雨でも傘をささないとよく言われる。霧雨が多くすぐに天候が変わるのも理由の一つだが、彼らは傘の代わりに雨用のコートと長靴を日常的に使う。日本のレインコートはナイロン製、見た目にもカラフルでコンパクトだが、イギリスのそれは全くの別物。伝統的なものでオイルコーティングされた深緑色のコートをよく見かける。子どもから大人まで、玄関先のフックに引っ掛けてあり、長靴と共にすぐ出動できる状態に置くご家庭は多い。隣人夫婦もこのコートのヘビーユーザーで、土砂降りでも散歩を休まない。伝統スタイルに憧れた私も購入してみた。しかし、これが重いなんのって！肩こりが悪化し、あえなくギブアップした。(イギリス)

メキシコの首都メキシコシティは、標高 2200 メートルの高地にあり、日本から持ち込んだスナック菓子の袋はパンパンに膨れ上がり、沸点が 100 度に達しないためご飯を炊くのもパスタをゆでるのも圧力釜を使わないと芯が残ります。また、空気が薄くて高山病にかかるため、走ると倒れると言われていました。なのに、生後 6 か月からそこで育った長男は順応して走り回って遊んでいました。日常生活が高地トレーニングになっていたのかもしれませんが。(メキシコ)



ある年の大晦日のこと。夕方から降りはじめた雪は全くやむ気配もなく。朝起きたらびっくり、玄関ドアの上の高さまで積もっていた。アパートの雪かきが終わるまでの丸一日、外に出ることもできず、もちろん車もガレージからも出せず、寝正月を決めこんだ新年だった。(アメリカ)



海外の学校を紹介します

International School of Tallinn

S. T.

僕は高校1年生の頃からエストニアという国に留学しています。小学1年生から5年間、父の駐在に伴いインドのアメリカンスクールに通っていました。帰国後、高校からはカナダに留学する予定だったのですが、コロナのこともあり、なかなかビザが下りなかったため、以前から電子国家などで興味があったエストニアに留学することを決めました。



エストニアはバルト三国の一番北の国で、フィンランドの南にあります。首都はタリンで国土は九州地方とほとんど同じくらいです。エストニアは電子国家として有名で、投票から様々なことがネットでできます。北の方の国なので冬の時期は雪が降って寒いですが、夏はとても過ごしやすいです。公用語はエストニア語のため、僕はインターナショナルスクールに通っています。

最近できたインターナショナルスクールで、生徒数も pre-school から12年生まで合わせて150人程度です。校舎は空港近くのオフィス街にあり、大きいモールが2つ隣接していてとても便利です。授業は英語で行われていて、生徒も純エストニア人は少ないです。ロシア系の生徒が多く、ロシア語を耳にすることも多々あります。それでもほとんどの人が英語を話せるので特に苦勞はしません。人数が少ないため先生との距離もものすごく近いですし、輪の中にも入りやすいと思います。

授業では若い学年でもパソコンや iPad を使っています。課題は全部ネットにアップして自分の成績なども全てネットからみます。高校生の課題はネットで調べたことをまとめたり、プレゼンテーションを作ることが多いです。あまり慣れていない人は大変かもしれませんが、勉強するいい機会です。授業はプレゼン形式が多いですが、教科によってまちまちです。特に英語や Philosophy などはほとんど対話式で、とてもアクティブです。しっかり発言をすればいい学びになる授業ですが、黙っていると置いていかれてしまうため集中せざるを得ない授業です。どの教科も教科書はなく、先生が選んだ動画などをみて学ぶこともよくあります。課題も出ますが、しっかりタイムマネージメントをすればこなせる量です。



学校行事はそこまで多くはないです。Pre-school から12年生までいるため学校全体の行事は少ないです。それでも8年生くらいまではクリスマスやハロウィーンの行事を楽しんでいます。11年生と12年生は Community Service という授業の一環で、イベントを開催することも年に数回あります。今年度は今までに生徒全員が参加できる Outdoor Sports Event がありました。僕はもう1人の日本人と、日本語を教えるクラスを週に1回で1ヵ月間やっていました。イベント開催の難しさなど色々勉強になります。

小さな学校ですが、いい面もたくさんあります。先生や他の生徒との距離も近いですし、突然イベントなどが決まることもあります。例えば先日、ドイツとフランスの大使に会える機会ができました。大きい学校ならば突然そういうことをするのは難しいところ、特に少ない上級生だけだったので数日前に決まり、いい経験になりました。まだ11年生なので、これからも頑張っていっていい成績を残して卒業したいです。

かけはし会員便り

自分磨きのチャンス到来 ～お母さんだってがんばっています～

大学で仏語を専攻し、ベルギーにも留学経験があったため、夫の転勤先がブリュッセルに決まった時には、海外生活に対する不安よりも期待が大きかったことを覚えています。赴任当時、駐在期間が未定であったため、とにかく少しでも仏語のレベルを上げようと、前のめりで勉強を始めました。その甲斐もあって、帰国する頃には、大学附属の語学センターの最上級クラスを修了しました。

帰国後、子どもの生活が落ち着いたタイミングで、仏語を使える仕事を探し、旅行代理店で海外のお客様をお迎えする仕事を始めました。その際に、全国通訳案内士試験を受験するようアドバイスを受け、実際に受験したところ、合格することができました。ちょうど、仏語圏からのお客様も増えてきた時期だったために、すぐに新人研修を受けてガイドとしてのキャリアをスタートさせることができたのはラッキーでした。

ガイドの仕事は、たくさんの準備が必要で、臨機応変な対応が求められ大変な思いもしますが、仕事が終わった時のお客様からの「ありがとう。楽しかったよ。」という言葉を知るとすべての苦勞が報われる気分になります。

2020 年からのコロナ禍で、通訳ガイドの仕事自体はストップしている状況ですが、キャリアアップのためオンラインで通訳養成講座を受講し、ガイドのレベルアップのための研修を受けています。まだ知らないことや知りたいことが多く、勉強は終わりません。(Y.Y.)



今どきの一時帰国「隔離ガチャ」体験記

2022 年 2 月の一時帰国時に、コロナ対策として(3 月から変更)、巷で「隔離ガチャ」とささやかれる、どこに連れていかれるのか到着までわからない強制隔離 6 泊 7 日を体験しました。経験者の口コミで「当たり」と言われていたホテルにバスが横付けされたときは思わず心の中でガッツポーズ。誰にも邪魔されないぐうたらな時間に心躍らせていましたが、習慣には抗えず、終日パジャマでは過ごせずに毎日着替えていました。

3 食届けられる冷たい弁当を電気ポットだけでいかに温めるか試行錯誤しましたが、結局熱い湯をはった風呂にぶかぶか数十分浮かせるのが一番ほんのり温まりました。途中、ごはんの量が多く、果物や生野菜の少ない献立に耐えられず「ビタミン C 不足で肌荒れがひどい」と訴えたところ「ハラール食」(イスラム教において食べることが許されている食品)を勧められました。果物やサラダ、ジュースやヨーグルトがついていて最初は喜んだものの、豆や小さな鶏肉団子などのワンパターン献立が続いたので、最終日には普通食にもどしてもらうことに。結局弁当のことだけで頭がいっぱいの日々でした。無料なのに文句を言ったら罰が当たっちゃいますね。



上は普通弁当
下はハラール弁当

アルコールと生もの以外は自費で外部に注文することや差し入れも認められていました。友人から電話があり「おやつ持ってきたのに会えない」と。隔離施設なので面会はできないのですが...フロントから連絡があり、友人の和菓子入りの心遣いはドアの前に置いてありました。ストレッチやエアなわとびぐらいしかできない身体に甘い誘惑が。言うまでもなく、隔離で体重増というおまけもいただきました。お世話してくださったスタッフのみなさまに心より感謝です。(N.T.)

「関西帰国生親の会かけはし」と他の団体とのつながり

かけはしでは、他の団体と交流を持ち、会員の海外、帰国後の経験を外部の皆さまに役立てていただくこともあります。2021 年度も新型コロナウイルスの感染予防のために、中止となったイベントもありましたが、皆さまとの繋がりをたいせつに活動を続けています。

講師派遣

企業海外渡航前セミナー (オンライン開催 2 月 10 日)

兵庫県海外子女教育・国際理解教育研究会セミナー (オンライン開催 2 月 12 日)

渡航前個別相談会 (オンライン開催 通年)

寄稿・雑誌掲載

『月刊海外子女教育』 (公財)海外子女教育振興財団 2021 年 9 月号 学校案内の紹介記事掲載

『月刊海外子女教育』 (公財)海外子女教育振興財団 2022 年 3 月号 特集

「帰国生の母親たちのボランティア自分たちの体験を多くの人と分かち合う」

『月刊グローバル経営』 (一社)日本在外企業協会 2021 年 6 月号 「統合コースには乗ってみよ」

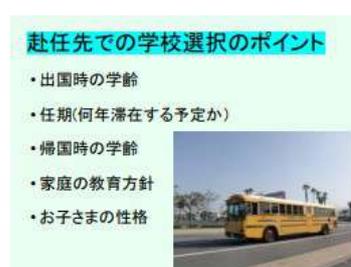
『月刊グローバル経営』 (一社)日本在外企業協会 2022 年 3 月号 「ドイツのパンの話」

『帰国便利帳』 Y's Publishing Co., Inc. 2021 年春夏号、秋冬号 学校案内の広告掲載

ご紹介します

企業海外渡航前セミナー

かけはしは、これから海外に渡航をされる企業の方にセミナー形式で、海外生活の心得や現地の情報、また子どもの学校のことなどをお話させていただいています。会員の経験と知恵を積み重ねた虎の巻やパワーポイントを作り、毎回検討を重ねてバージョンアップをしております。2021 年度もオンライン開催となりましたが、セミナー後半はグループに分かれて、かけはし会員の実際の体験談を交えながらご質問などにも答えさせていただきました。皆さまの海外生活に対する不安が少しでも軽減して、これから始まる新たな生活に期待がふくらむことを願っております。



(パワーポイント資料例)

春のオンラインレッツトーク (2022 年 3 月 10 日 実施)

秋に続いて 2 回目となるオンラインでのレッツトークを実施しました。時差があるにもかかわらず海外からご出席いただいた方、前回からの連続ご参加の方、初めての方も少人数のグループに分かれて、かけはし会員と共におしゃべりに花を咲かせる楽しいひと時となりました。帰国後の言語保持、学校選択、現地での子どもたちの様子など、話題は山ほどありました。実施後のアンケートからも皆さんの満足度が伝わってきました。ご参加くださった皆さまありがとうございます。次回またお会いいたしましょう。



会員のつづやき



-  娘への着付けをきっかけに、自分でも着物を着たい！と現在修行中。本や YouTube を見ながら、色々省略、細かい事にこだわらず、ゆる～く着ています。土日は着物の上に割烹着を着て、昭和のお母さんをやっています。(Ibu Anak Cinta)
-  アロマテラピーを学び始めた娘の影響で化粧水やクリームを手作り。添加物一切なし、好みの香りでお肌の調子は上々！ありがたいけれど、庭のハーブを刈り込むと娘からクレームが来るので、雑草だらけに見えるのはちょっと…。ミントもカモミールも元は野草ですよ。(アルカマル)
-  満開の桜をいたるところで楽しめるこの季節は本当に美しい。ベランダから眺める淡いピンクのソメイヨシノに癒され、それが葉桜になり「あと何日かな…」と寂しくなる頃、そのお隣で濃いピンクのかわいい八重桜が開き始める。この2本のピンク色のバトンタッチは、毎年恒例のお楽しみだ。(桜もち)
-  北京に留学し中国語ペラペラになるはずだった息子。勉強そっちのけでドラゴンボートを漕いでいたらしい。春節の休暇に東南アジア旅行に出かけ、中国に戻れなくなり着の身着のまま帰国。残りはオンライン留学に。コロナに翻弄された大学生活だったが彼なりに異文化交流はできたようだ。中国語は…。(だ一子)
-  海外、東京を経て、8年ぶりに住む大阪。忘れかけていた思い出が次々とよみがえってきます。7歳だった息子は15歳。もう虫網振り回す姿を追いかけることはなく、自転車ですり抜けに出かける背中を見送りながら無事を祈る毎日。大阪のクラクションにめげないで、安全運転でね！(Ruby)
-  帰国生として入学した息子の大学の入学式でのこと。外見も名前も日本人の学生が英語で、その正反対の学生が日本語で新入生代表スピーチをしていました。大学側も参加者もそれを当たり前のように聞いていた入学式は、この大学を選んで良かったと思えた瞬間でした。(新人)
-  常夏で生まれ育った愛犬も、早いもので4回目の春を迎えました。子供が巣立ち、また夫婦2人の生活が始まった今年…。桜まじりのそよ風と眩しい春の日差しに目を細め、気持ち良さそうにしている姿に夫婦で癒されています。(しろぼめ)
-  日差しが強くなり洗濯物がよく乾く季節。部活をしていた2人の息子がいるときは1日に2回洗濯機を回していたのに、今では洗う物はないかと探す日々。頻りに寝具を洗う私に「最近衛生的になったな」とつづやき夫です。(ひなた大好き)
-  娘が晴れて社会人に。学生時代は毎朝5時半起きで15分後にはあたふたとバイトに駆けつけていたのが、今や出かけるのは7時半。朝食を取り、音楽を聴き、新聞に目を通し…。労働時間はずっと長くなったはずなのに、なんかゆったり過ごしている!!(トホホの母)



編集後記



滋賀の林の中に住んでおられる大学のサークルの大先輩。若いころから海外で働き、バックパックで世界を回り、大学で教鞭をとり、70歳で中山道を自転車で完走して10年後の今、初夏には家の周りで採った木苺でパフェを作って楽しみ、雪の多かった昨冬は、裏庭で焚火をしてインスタントラーメンを作って朝ごはんにしたらおいしかったと SNS で配信。私も年を重ねてこんなチャーミングな人になりたい。

会報 47 号いかがでしたか。ご意見、ご感想をぜひお寄せください。

2022 年秋 発刊予定 今年度も制作を開始しました!!

関西圏学校情報誌『帰国生への学校案内《関西》2023』

近畿2府4県の小・中・高50校と教育委員会を帰国生の保護者の目線で取材しました。在籍する帰国生や保護者の声も載せて、詳しく紹介した学校案内です。

編集テーマ 「SDGs への取り組み」

《特集記事》 かけはしセミナー要旨

「昔の帰国生、今の帰国生(仮題)」

講師 清水寛史先生 大阪府立住吉高等学校教諭

特別リポート「SDGs-帰国生の体験」

《基礎知識》 出国前に気をつけること、帰国への準備、海外/日本の学校への入学・編入学、他
大学入試基礎知識、英語保持教室・学習塾・予備校情報、他

《取材記事》 受験情報、特色、在籍帰国生・保護者の声、先生のお話、他

《コラム》 「帰国生こぼれ話～帰国後泣き笑い集～」 「帰国後の勉強～困ったこと・うまくいったこと～」
「海外での家族の思い出〈食べ物編〉」「異文化でドッキリ〈言い直し編〉」

A4判・350ページ 2,900円(税込・送料別) ISBN978-4-9908226-6-8

お申し込みは、かけはしHPご購入フォームより。Amazonでもご購入いただけます。



笹井 さゆり
(こうもりさゆり改め)

賛助くださっているみなさま (敬称略、順不同)

パナソニック株式会社 川崎重工業株式会社 K. I. H. S. 関西インターナショナルハイスクール
樟蔭中学校・高等学校 立命館守山中学校・高等学校 啓明学院中学校・高等学校
高槻中学校・高等学校 関西大倉中学校・高等学校 早稲田摂陵中学校・高等学校
大阪国際中学校高等学校 樋口正和(小林聖心女子学院中学校・高等学校教頭)
辻本久夫(関西学院大学非常勤講師) 匿名(団体) 匿名(個人)

♪かけはし会員募集中♪

< 関西帰国生親の会かけはし編 >

Email: kakehashi@kansai.email.ne.jp URL: <http://www.ne.jp/asahi/kakehashi/kikoku/>

copyright © 2022 関西帰国生親の会かけはし All Rights Reserved

